

国体 県代表決まる

目指せ大分!!



少年の部

<男子候補選手>

大塚 直樹(五條高) 中川 雄貴(橿原高)
新子 紘司(五條高) 和氣 誠明(奈良北高)
仲島 勇氣(高田商業高)

<女子候補選手>

吉田 理映子(高田商業高) 弥富 衿奈(高田商業高)
藤井 真美(橿原高) 井岡 千幸(畝傍高)
吉田 早希(橿原高)

2月の学年別新人大会から今回(6月15日)の最終選考会までの成績を考慮して決定。

成年の部

<成年女子>

監督 小川 和子(橿原)
選手 矢野 由起子(奈良) 西田 ゆり(奈良)
東中 千佳(橿原)
(補欠)井上 ゆみ子(奈良) 西口 亜希(橿原)

<成年男子>

監督 藤岡 順(香芝)
選手 矢野 有吾(奈良) 山口 亮二(奈良)
蔵地 隆文(奈良)
(補欠)土居 嗣人(橿原)

以上のとおり決定しました。皆様のご声援、宜しくお願いたします。

《予定》

8月24日(日) 近畿ブロック予選(滋賀県立武道館)
10月4日~7日 チャレンジ大分国体(大分県佐伯市)

称号者大会(兼 全日本弓道選手権大会 県選考会)

日時:平成20年6月1日(日)
会場:橿原公苑弓道場
参加人数:34名

梅雨の晴れ間の晴天の下、県下の称号者(5段オープン参加)が集まり大会が行われました。

閉会式では、吉本会長より「手先の射では無く、全身全霊を使った、のるかそるかの射をして欲しい。的中だけでは無く、一本でも良い射があれば選手権大会へ推薦をしたいと思ひます。射は、人格が見えます。感動をする射・射品射格のある射を見せて欲しい。」と、お言葉を頂き矢渡し(射手 新司教士 介添え 松田・藤原両錬士)の後に大会が始まりました。

【結果】

1位 竹村邦夫(橿原) 8中 (坐射一手5回計10射)

閉会式では、吉本会長より「今日一日射を見ていましたが、残念ながら全日本選手権の基準で70点以上を付けられる射は見られませんでした。特に同じ人が中った時と外れた時の退場の態度が全く違う、また退場時に袴の裾で大前の末はずを掃って退場する人もいました。今一度、称号者としての自覚を持ってこれから各道場で指導をして欲しい。」と、お言葉を頂き大会を終了しました。

【全日本選手権代表者】



男子
県代表:新司正人
近畿ブロック代表:
阪中計夫・森 昌彦



女子
県代表:明瀬綾子
近畿ブロック代表:
早山和子・岡本篤子

◆ 第5回 奈良県中学校弓道錬成大会

日時:平成20年5月3日(土)
会場:橿原公苑弓道場
種目:近的 男子・女子 団体戦および個人戦

[個人戦]

男子 1位 八木中 長尾 怜哉 (8中)
2位 白檀中 山本 雅也 (7中)
3位 天南中 松本 僚太 (6中)
女子 1位 橿原中 大前 友梨恵 (7中)
2位 橿原中 杉本 真莉 (7中)
3位 香芝中 北林 由衣 (6中)

[団体戦]

男子 1位 白檀中A(階戸、山本、兼近)
2位 天南中A(松本、檜尾、村田)
3位 香芝中B(原、森村、山口)
女子 1位 橿原中A(皿井、杉本、仁田)
2位 香芝中A(弥富、岡本、北林)
3位 白檀中A(中井、荒木、中町)

◆ 平成20年度 全国高等学校総合体育大会

第53回 全国高等学校弓道大会 県予選会

<個人1次予選会>

5月31日(土) 橿原公苑弓道場

参加者 男子220名 女子252名

3人立 各自4射 3中以上予選通過

予選通過者 男子43名 女子33名

<個人戦準決勝・決勝 団体決勝リーグ戦>

6月8日(日) 橿原公苑弓道場

参加者 一次予選通過者

準決勝 4射3中以上通過

男子43名中12名 女子33名中8名 通過

決勝戦 射詰競射

男子 ① 藤村 良(平城) ② 藤田 佑樹(畝傍)

③ 新子 紘司(五條)

女子 ① 木尾 真奈美(橿原) ② 吉田 早希(橿原)

③ 土本 夏生(五條)

<団体決勝リーグ戦>

男子 1位 橿原高校 5勝0敗 68中

中川・中野・上南・壺井・櫻井・高野

2位 奈良北高校 3勝2敗 59中

吉田・岡山・宮口・諸熊・和氣・野口

3位 五條高校 3勝2敗 57中

新子・坂本・大塚・辻内・田中・正治

女子 1位 高田商業高校 4勝1敗 71中

清水・吉田・川上・村井・弥富・土井

2位 橿原高校 4勝1敗 68中

宮崎・赤井・中村・小松・藤井・榎本

3位 郡山高校 3勝2敗 56中

江浦・巽・久保・坂口・武田・山口

個人1・2位と団体1位は、7月28~31日に埼玉県川越市で行われる全国高校総体に県代表として出場する。

◆ 第5回奈良県弓道総合選手権大会

(兼 国体予選会2回目)

兼 ねんりんピック県予選会)

場所：橿原公苑弓道場 5月25日開催

当日は、朝からの降雨のため、近的競技(座射)から開始した。午後からは、雨も上がり、さあ、遠的という方々も少なからずいたことでしょうか、射場・的場のコンディションを考慮した結果、午後からも近的(立射)での競技となった。

<成年男子の部>

① 山口亮二(奈良) ② 大西洋亮(郡山)

③ 矢野有吾(奈良)

<成年女子の部>

① 西口亜希(橿原) ② 西田ゆり(奈良)

③ 林 秀子(橿原)

【国体選考結果】

成年男子監督 藤岡 順(香芝)

成年男子強化選手

土居嗣人(橿原)、瀧井浩一郎(橿原)、

山口亮二(奈良)、蔵地隆文(奈良)、

矢野有吾(奈良)、乾 光孝(香芝)

成年女子監督 小川和子(橿原)

成年女子強化選手

榎田容子(橿原)、東中千佳(橿原)、

西口亜希(橿原)、井上ゆみ子(奈良)、

西田ゆり(奈良)、矢野由起子(奈良)

ねんりんピックへ始動!

過日「県総合選手権大会」

にて吉本会長より発表の

選手全員が本10日、奈良

市弓道場に初顔合わせ、

鹿児島大会までの準備・

スケジュール等の打ち合

わせ後、立ちを組んでの

練習が始まり、いよいよ

本番へ向け奈良県弓道代

表チームが大きな動きを始めた。

四ッ矢4回の練習ではあったものの選手が繰り出す矢に

心強いものを実感、午前中での練習後、月間2回の練習を

用意して散会、代表選手は以下の方々です。

【ねんりんピック鹿児島2008弓道交流大会】

奈良県弓道代表選手 監督以下5名(敬称略)

監督 中埜広樹(香芝)

1番 井阪 清(奈良)

2番 石田弘子(奈良)

3番 森川 昭(郡山)

4番 喜殿幸子(香芝)

5番 赤松順次

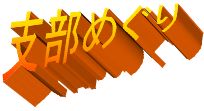
交替選手 中埜広樹(兼任)

練習結果 総合射数80射 的中44中

初めての行射にしては好成績で終了

(記録 宮本 修)





布目支部 編

布目弓道場「英明館」は山添村の美しい山々と田畑の緑に囲まれたダム湖畔にあります。

地元名士である故中窪英明さんが、診療所の医師として来られた吉本先生と出会って感銘し、村外からの来訪者を含めた地域の活性化と弓道を通した子供たちの成長を願って、この地に道場を建てられました。

春は鶯、夏は蛙、秋は日暮蝉など、季節の鳥や虫たちの声が聞かれ、芝桜・水仙・紫陽花・秋桜の花が美しく咲き巡る環境です。梅雨には虫、冬も夜には満天の星や満月が見られ、とても静寂な空間の中で弓に没頭することが出来ます。



[写真：休憩時には皆で美味しくお菓子を戴き、弓道談義です] 週3回の教室があり、主に、火曜は大人（教本の読会あり）、水曜は子供（色付大的も使用）、金曜は称号者が来られます。各教室の練習は、休憩を含め夜7時から9時の2時間です。三人立ち座射の練習（審査間合い）を基本とし、吉本先生のもと、年齢・経験・称号段位の垣根を越えて、ともに道を極めんと練習に励んでいます。

安土や矢道、的や道具の手入れも互いに率先し助け合っています。礼を重んじ、真剣で、かつ楽しい雰囲気です。どなたでも練習に来ていただけます。

最後に、英明館弓道場にある「弓道修練の心得」（上田喬弘著「弓道散歩」より）を紹介します。

1.弓道は自己の人格錬成の道である。真心を込めて精進する事。2.禮儀作法を良く弁え敬虔な心で総てにあたる事。3.常に和を心がける事。4.基本の術を確実に行う事。5.目標を立てて、たえず励む事。6.器具を大切に事。7.身を惜しまず実践する事。8.弓道で得たことを社会へ奉仕する事。 皆さん、ぜひお越しください。

（村岡 公紀・村寄 健次）

歳時記

七月 七夕

七月は文月と云い、七夕で知られるように、歌や書道と結び付けて考えられていますが、本来は書物の虫干しの月です。七夕は牽牛、織女の二星にことよせて、一年のうちにこの日だけ出会えると言う伝承をもとに、機織り（はたおり）の巧みさを望んで祭ったものです。空に映える天の川の美しさが味わえるのも旧暦でのことで、新暦によって次第に失われていく行事になりました。



反面、仏教上の行事である盂蘭盆会（うらぼんえ）は年々盛んになって、盆と正月と言われる程、定着したものになりました。盂蘭盆は梵語（ぼんご）のウラボーナと云う語からの言葉で、正しくは倒懸（とうげん）と訳します。死者の霊が、悪処におちて倒（さかさ）まの苦しみを受けるという故事伝承に基づいています。飲食を供えて霊の苦しみを救うことを願う意味があります。

今日では、有縁、無縁にかかわらず、七月十五日がこの供養の日になりました。

インドから中国を経て、日本では奈良時代から行われていますが、今日のように定着したのは、この供養が祖先崇拜と結びついて祖先の供養の日となったためです。したがって倒懸という意味は今では全くなくなっています。

お盆は七月十五日を中日にして、十三日の夜に門口に麻幹（おがら）をたいて精霊（しょうりょう）を迎えます。これが迎え火で、祖先の御精霊さまを迎えるのです。家に精霊棚を設けるか、仏壇に枝豆、瓜、なす、はす、根いもなどを供えて、麻幹の箸を添えます。そして僧侶を招いて棚経をあげます。十五日に墓参りをします。墓地を清掃し、墓に水をあげ、花を供えて筒香をたきます。明けて十六日に門口で麻幹をたき、迎え入れて供養した精霊をお送りします。これが送り火で、京都の大文字焼きもこれをなぞらえたもの。盆行事の終わった夜、供養に供えた野菜、果物などをのせた藁の舟に、灯りを燈して川に流します。この灯籠流しもゆかしい風情のある行事です。

「小笠原流マナー」 著者小笠原清信 グラフ社発行より
中壘狛大学藤原孝澄(中壘広樹)